

授業科目 高次機能障害学

【担当教員名】 能登 真一	対象学年	3	対象学科	理学
	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎	◎	○
【概要・一般目標：GI0】 脳損傷によっておこるさまざまな高次脳機能障害について、理学療法士が臨床現場でそれらを的確に評価し、あるいはそれらの障害に対して的確なアプローチができるように、基礎知識を整理した上で、評価方法、アプローチ方法などを学習する。				
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 高次脳機能障害を学ぶための脳解剖知識が整理できる。 2. 高次脳機能障害の個々の症状を列記し、それらが生じるメカニズムを理解できる。 3. それぞれの高次脳機能障害に対応する評価方法を述べ、一部を実施できる。 4. 個々の高次脳機能障害に対するアプローチの基本姿勢を説明することができる。 5. 個々の高次脳機能障害に対するアプローチ方法について、議論できる。 6. 高次脳機能障害に関心を持ち、治療者としての責任感を身に付けることができる。				
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	脳解剖の整理と高次脳機能障害の概説		1	講義
2	高次脳機能障害の臨床像		2, 3	講義
3	失語, 失行, 失認とその評価・アプローチ方法		3～6	講義, 演習
4	注意障害, 記憶障害とその評価・アプローチ方法		3～6	講義, 演習
5	半側空間無視とその評価・アプローチ方法		3～6	講義, 演習
6	Pusher 症候群とその評価・アプローチ方法		3～6	講義, 演習
7	前頭葉症状とその評価・アプローチ方法		3～6	講義, 演習
8	まとめ		1～6	講義
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	高次脳機能作業療法学	能登真一	医学書院	2012・3,800円+税
参考書				
その他の資料				
【評価方法】 出席約10%+期末試験約80%+態度約10% によって総合的に判定する		【履修上の留意点】		